

JRA競走馬総合研究所スタッフが語る

サラブレッド のおはなし

藤井良和

(JRA競走馬総合研究所) = 文
text by Yoshikazu Fujii

地球温暖化はいずこへ、競馬の開催が2週
続けて雪のために順延になるなんて…。しか
し、今年の寒くて長い冬もやっと終わり、春
つらら、花満開…。春といえば多くの動物た
ちの恋の季節が始まります。サラブレッド
の世界も例外ではなく、ポカポカ陽気に誘わ
れて、春の目覚め「発情」が起こるのです。

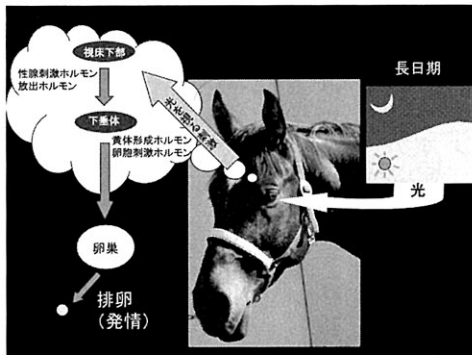
サイエンス的には、温度よりも光の方が重
要な因子となります。春が近づき、日の光日
照時間が一日一日と長くなるにつれ、太陽光
線が脳の視床下部や下垂体を刺激し、卵巢に
卵胞が発育して、性ホルモンの分泌を促すよ
うになります。このホルモンの作用によって
排卵が起こり、子宮は妊娠できる準備が整い
ます。このように、牝馬が交配可能な状態に
なっていることとそれを牡馬に知らせる現象
が「発情」であり、馬関係者の間ではいわゆ
る「フケ」と呼ばれています。(図参照)

「フケが来る」「フケが来た」という表現で使
われ、春そして牝馬限定の敗戦言い訳ランキ
ング(?)にも顔を出しますが、フケは競馬や
追い切り調教など全力で疾走している時、運
動能力への影響は全くないというのが世界的
な見解です。厩舎関係者も、フケを気にして
いたら、除外フッシュのこのご時勢、使っし
ースがなくなりますが、との意見も…。
最近、トレセンではフケの馬があまり見ら

『フケ』が競走能力に悪い影響を与えるという報告はありません

れなくなったそうです。ストレスにより生殖
機能が抑制されることは、古くからよく知ら
れています。昔と違って攻め馬が強くなった
こと、つまり運動量、運動強度が数段レベル
アップしたことによるものでしょう。競走馬
のフケは3〜6月ごろに見られますが、すべ
ての牝馬に毎年必ずフケがくる訳ではなく、
トレセンでは一つの厩舎に1、2頭見られる
かどうかです。それは個体差ではなく、3歳
の、最初の排卵時がフケの現象が一番出やす
く、古馬は目立たなくなるからです(中には2
歳で見られるケースもあります)。

『フケ』の語源はというと、『日本国語大辞典』
(小学館)によれば、東北地方などの方言で、
『ふける』が「鳥が交尾期にさえずる」「鳥獣
が発情する」の意味で使われ、馬産地経由で
厩舎用語として、しかも名詞形で現在に至っ
ているようです。欧米ではフケの描写をワイ
ンキング、ライトニングなどと言います。
フケの来た牝馬が外陰部でそれを表現する仕
草が魅惑的あるいは眩しいことを率直に表現
したものであり、実際に見ると極めて印象的
です。残念ながら、その詳しい描写は、格調
高い(?)『優駿』の誌上では描けません(ポカ
シの入るころですが)。



目から入る光が脳を刺激し、一連のホルモン活動を誘発します

figure by Yoshinori Kasashima